

シャインマスカット

登録番号: 第 13891 号	来歴: 「安芸津 21 号」〔「スチューベン」 ×「マスカット・オブ・アレキ サンドリア」〕と「白南」の交 雑実生
登録年月日: 平成 18 年 3 月 9 日	
登録者: (独)農業・食品産業技術総合研 究機構	
育成者: 山田昌彦 佐藤明彦 山根弘康 平川信之 岩波 宏 吉永勝一 小澤俊治 三谷宣仁 白石美樹 夫 吉岡美加乃 中島育子 中 野正明 中畠良二	育成地: 広島県東広島市安芸津町 ((独) 農業・食品産業技術総合研究機 構果樹研究所ブドウ・カキ研究 拠点)

特性

■栽培特性

樹勢は強く、「ネオマスカット」と同様に新梢は旺盛に伸びる。発芽期は「巨峰」とほぼ同時期で、開花期は「ネオマスカット」とほぼ同時期である。満開期に整房すると結実が良く、短梢剪定栽培においても種有り栽培が可能である。種有り栽培では一房当たりの整房労力と摘粒労力は比較的少なく、種有り栽培の「巨峰」と同程度である。満開時および満開後 10～15 日後にジベレリンを花房（果房）に処理すると種無し栽培が可能である。

■果実特性

「巨峰」とほぼ同時期に成熟する黄緑色の 2 倍体品種である。果粒形は種有りでは短楕円であるが、種無しではややカボチャ型の短楕円となる。肉質は崩壊性で硬く、マスカット香を呈する。糖度は高く 20%程度になり、酸含量が 0.4g/100ml と少なく、渋味もないため食味に優れる。はく皮性は「巨峰」よりやや劣るが、裂果や縮果症はほとんど見られない。脱粒性は「巨峰」より少なく、日持ち性は「巨峰」より長い。穂軸が褐変しやすい傾向がある。種有り栽培の果粒重は 10g 程度だが、種無し栽培の果粒重は長梢剪定栽培で 11g 前後に増加する。短梢剪定栽培など新梢勢力が旺盛なほうが果粒重は増加するが、支梗が伸びて房型が横張する傾向が見られる。なお、若木のうちは果粒重が抑えられる傾向があるが、樹勢が落ち着けば果粒重は増加して安定する。

■病害虫抵抗性および栽培上の留意点

黒とう病には弱く、西南暖地など降水量の多い地域では雨除け栽培が望ましい。灰色かび病、べと病、晩腐病など他の主要病害への抵抗性は「巨峰」と同程度と思われる。根頭がんしゅ病についての抵抗性はない。

育成地では収量目標を種有り栽培で 1.7t/10a、種無し栽培で 1.6t/10a 程度としているが、最適収量は栽培条件によって増減すると考えられる。ただし、着色の心配がいらぬ品種のため、着房過多には十分な注意が必要である。

種有り栽培での花穂整形は、満開期（八分咲き以降）に花穂の下部約 4cm を除去し、その上 7cm（13～15 段程度）を用いる。花穂整形の時期が早いと花振るいしやすい。摘粒は 9cm の穂軸に 40～50 粒程度とすると 400～450g の果房が得られる。

種無し栽培では、花穂の下部 4cm を用い、満開時（十分咲き）および満開 10～15 日後にジベレリン 25ppm を花房（果房）に処理する。ジベレリンの感受性は高いが、処理時期が満開時なので、事前にストレプトマイシン 200ppm を花穂に処理すれば無核化率が安定する。摘粒は 8～9cm の穂軸に 40～45 粒程度とすると 450～500g の果房が得られる。

■地域適応性

耐寒性は「巨峰」と同程度であるため、「巨峰」が栽培できる地域であれば栽培は可能である。しかし、凍害の発生が多く、根頭がんしゅ病の発生が多い地域への導入には十分な検討が必要である。
(上野俊人)